2013．１月号外
日本共産党江南市委員会
電話　55-9890

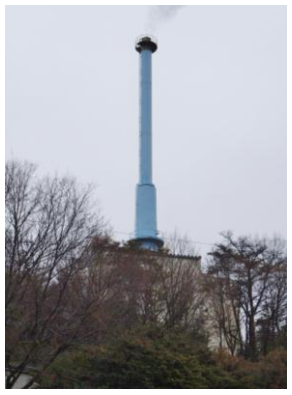
あすの江南

新ごみ処理施設

中般若への押しつけは撤回を！

江南・犬山・扶桑・大口２市２町の新ごみ処理施設の候補地について堀市長は、昨年 10 月の４首長会議において江南市内への受け入れを一方的に表明。さらに 12 月末には、住民への説明も了解もないまま「中般若町北浦地区」と発表しました。

江南丹羽環境管理組合の現焼却施設（大口町河北地区）HPより



犬山市都市美化センターの現焼却施設（犬山市塔野地地区）

重ね重ねの住民無視は許されません

市が勝手に中般若を候補地に決めたのは２度目です。４年前（2008 年９月）の時はあまりの住民無視に、区役員全員の連署で撤回を市に要請。中般若会館で開催された説明会（2010 年2月）では厳しい批判の声が続出しました。

候補地が犬山市池野地区と決定した 2010 年6月、堀市長は中般若区民に対し「今後は犬山市の地元に対する説明会の開催を始め、２市２町で協力し合って新ごみ処理施設建設を推進していく」との報告書を回覧しました。しかし直後から、堀市長と３首長との対立が表面化。中般若との約束は守られませんでした。

４年前の押しつけに続き、またしても・・・。重ね重ねの住民無視は、行政への信頼を著しく失わせるものです。

非公開のまま「身内」で評価し結論づけた ずさんな評価書

今回、中般若町北浦地区を選定した根拠として市は、「3ha 以上の土地が確保できる市内５ヶ所の用地について、10 月以降、副市長以下７人の庁内プロジェクトチームで検討した結果、中般若町北浦がもっとも評点が高かった」と、議会全員協議会に説明しました。

しかし、プロジェクトチームの存在すら議会にも市民にも知らせずに、客観的立場の第三者を一人も含まない「身内」だけで評価するという、あまりにずさんなやり方。評点の根拠も具体的な数字も示さずあいまいです。このような評価結果を住民が納得できるはずがありません。

ゆきづまりの原因と責任を明確にし 犬山候補地に結論を出すのが先

２市２町の首長会議のあり方にも大きな問題があります。ゆきづまった正式な候補地・犬山市池野地区に対する結論を棚上げしたまま、江南市長が一方的に表明した中般若町北浦地区について協議しようとしています。こんなスジの通らない話はありません。

ここまでゆきづまり遅れた原因と責任を明確にし、犬山候補地について結論を出すことが先です。堀市長は江南市内への受け入れ表明を撤回し、その上で、今後４市町としてどのような選定方法で進むのか、ワク組みの見直しを含め一から協議し直すのがスジではないでしょうか。

よりよい施設を
よりよい場所に

ごみ減量を正面にすえ、一からやり直しを

情報を公開、住民参加で合意を積み上げ、公正公平な選定を

ごみ処理施設を歓迎する人はいません。しかし全市民にとって必要な施設であり、周辺住民の理解と合意があって、はじめて建設が可能となります。

候補地の選定は、住民と行政の信頼関係を何よりも大切に、情報を十分に公開し、住民参加と合意のもと公正・公平な方法で行われなければなりません。

また、燃やすごみを極力削減して、施設周辺の環境に与える負荷を減らす必要があるのはもちろんのことです。

建て替えをごみ減量の契機に/武蔵野市

東京都武蔵野市は、市役所庁舎の隣に焼却場をもち２８年前から稼働させています。この施設の老朽化に伴い、すぐ隣に新施設を建設することで周辺住民と合意。

年間３万 5000 トンの焼却ゴミを３万トンにまで減らす計画を立て、日量１９５トンの炉から新施設では１２０トンの炉へ縮小しようと、市民・事業者・市が一体となって厳しい減量目標に挑戦しています。施設の建て替え問題をきっかけに、全市民にごみ問題への理解を深めてもらい、減量・資源化を一層推進していきたいとしています。